

②-2渋滞解消推進本部について

◆(淵上陽一君)次に、渋滞解消推進本部についてお尋ねします。

熊本都市圏では、朝夕の通勤時間帯のみならず、路線によっては日中や週末も渋滞が顕著であり、県民最大の関心事となっております。

また、令和3年に熊本都市圏連絡道路経済効果等検討会が公表した渋滞による経済的損失額は、県民1人当たり年間17万円、熊本市民では約24万円に上るなど、交通渋滞が県民の日常生活や経済活動に深刻な悪影響を及ぼしていることは明らかなです。

昨年6月定例会における前川議員の代表質問に対し、知事は、熊本都市圏を取り巻く交通環境は極めて厳しく、これにしっかりと向き合わなければ熊本の成長はない、熊本の未来のさらなる発展に向けて、渋滞解消に時間的緊迫性を持って取り組むとの決意を表明された上で、年内を目途に渋滞解消の取組を取りまとめることや熊本市長や各市町村長との対話を広げていくと答弁されました。

その後、昨年7月の大西熊本市長とのトップ会談において、車1割削減、渋滞半減、公共交通2倍というキーワードが示されました。

また、8月には、県と市の議長も出席しての熊本県・熊本市調整会議が開かれ、まずは、従来からの渋滞に加えて、企業の集積などに伴い、特に大きく交通状況が変化している熊本市東部とセミコン周辺を含む熊本都市圏の北東部エリアをターゲットとして、年内を目途に渋滞対策の方向性を示すとともに、短期対策として、具体的な箇所を公表することとされました。

昨年度実施されたパーソントリップ調査では、熊本市東部の地域内を移動する交通が朝ピーク時で2割から3割増加していることや、12月の熊本県交通渋滞対策協議会で、熊本都市圏北東部の主要渋滞箇所が12か所追加されたことも公表されております。

まずは、このエリアをターゲットにどのような対策が示されるのか、私も非常に期待を寄せていたところであります。

こうした中、昨年12月の第2回熊本県・熊本市調整会議において、車の流れをよくする施策とピーク時の交通を分散する施策や車から公共交通への転換を促す施策を連携させて取り組むことが示されました。

このうち、車の流れをよくする施策では、1、既存の道路改良計画の着実な進捗に加え、県、熊本市で3年以内に30か所の交差点改良等を行うことにより、10年以内に主要渋滞箇所約80か所を改善すること、2、ピーク時の交通を分散する施策では、企業を含むオール熊本で、1年以内に1万人のオフピーク通勤等に取り組むこと、3、そして、車から公共交通への転換を促す施策では、公共交通の利用を促進させるソフト対策や輸送力を強化する基盤整備などにより、全ての移動手段のうち、公共交通が占める割合を10年以内に2倍とすることが県民に約束されました。

私は、県議になって以来、我が国の国道の中で最悪とまで言われる国道3号線山鹿―熊本間の渋滞解消を目指して、国道3号植木バイパス早期実現期成会を立ち上げ、期成会の皆さんと国土交通省をはじめ関係各所に対し陳情を繰り返してきましたが、その私からしますと、この3つの約束が本当に達成されれば、一定の渋滞解消が実感できるのではないかと頼もしく感じる反面、過去の経緯と現状を振り返りますと、今回の取組が画期的なブレークスルーとなり得るのか、不安を感じているのは私だけではないと思います。

そこで、亀崎副知事に2点お尋ねします。

まずは、県・市調整会議で合意し公表された対策については、直ちに具体策に着手し、できるだけ早く県民に変化を実感していただくことが重要であるため、現在の取組状況についてお尋ねいたします。

次に、交差点改良など短期的な対策だけでなく、将来の熊本都市圏の交通の姿を見据えた抜本的な対策が極めて重要であることから、中長期的取組の方向性についてお尋ねいたします。

◎副知事(亀崎直隆君) 熊本都市圏の渋滞問題は、本県にとりまして喫緊の課題であり、道路施策と公共交通施策を車の両輪として推進することが不可欠です。

議員御指摘のとおり、県民の皆様に早期にその効果を実感していただくことが重要であり、中長期的な対策を進めながら、即効性のある短期対策を効率的に、かつ重点的に実施してまいります。

まず、1点目の昨年末に公表しました対策の取組状況についてお答えいたします。

車の流れを円滑にする取組といたしまして、信号制御と連携した交差点改良を進めており、県と熊本市で計30か所の交差点改良を計画しております。

そのうち、県が実施します19か所につきましては、阿蘇くまもと空港と都市圏中心部を結ぶ第二空港線や合志市御代志周辺からセミコンテックパーク間の県道大津西合志線、大津植木線の主要渋滞箇所など、右折レーンの追加を含む改良計画の具体化に向け、用地調査などに着手いたしました。

また、バス停車時の後続交通の流れをスムーズにするため、旧国道57号、すなわち県道熊本菊陽線の自動車学校阿蘇製菓前バス停や国道387号の再春医療センター前バス停など、10か所を対象にバスベ이의整備を進めております。

ピーク時の交通を分散する取組といたしましては、昨年9月に、県と熊本市の職員4,000人が時差出勤等を実施しました。その結果、県庁付近の交差点におきまして、朝のピーク時間帯の交通量が約1割減少し、2キロメートル以上の渋滞発生回数も前年と比べ半減するなど、定量的な渋滞緩和効果が確認されました。この取組は、近隣自治体や経済界からも賛同を得ており、今後は県民運動としてさらなる展開を図ってまいります。

さらに、車から公共交通への転換を促す取組として、公共交通の重要性やその社会的便益について県民の皆様に周知を図るとともに、公共交通を利用しやすい環境整備にも取り組んでおります。特に、パーク・アンド・ライド駐車場の設置箇所や駐車台数の拡充に努め、公共交通の利用促進を図ってまいります。

これらの短期対策については、県民の皆様にその効果を実感していただけるよう、引き続き迅速に取り組んでまいります。

次に、2点目の中長期的な取組の方向性についてお答えいたします。

道路施策では、熊本都市圏3連絡道路の計画の具体化や熊本西環状道路、中九州横断道路などの高規格道路の整備促進を図るとともに、国道や県道の主要な幹線道路についても、計画的、重点的に整備を進めてまいります。

具体的には、セミコンテックパーク周辺の基幹的な幹線道路について、昨年度創設された国の新たな交付金を活用いたしまして、地元自治体と連携しながら集中的な整備を推進します。また、交通量の増加が著しい熊本都市圏東部エリアでは、道路ネットワークの強化が必要と考えており、県と熊本市が連携して検討を進めてまいります。

さらに、熊本市周辺部の幹線道路につきましては、広域的な整備を進める方針で合意しており、現在、熊本市と菊陽町を結ぶ県道辛川鹿本線などの整備着手に向けた協議を進めております。

公共交通施策につきましては、バスやJR、電鉄電車の活用を促進し、公共交通へのさらなる転換を進めます。特に、JR豊肥本線の輸送力強化や新たな交通モードの導入につきましても、検討を深めてまいります。

熊本都市圏の渋滞対策については、熊本市に加え、合志市、大津町、菊陽町、嘉島町、益城町など周辺自治体とも連携し取組を行うとともに、今月14日に開催する第2回渋滞解消推進本部におきまして、都市圏全体の渋滞解消に向けた方針をお示しいたします。

今後も、国や警察本部、交通事業者など関係機関と緊密に連携し、一丸となって渋滞対策に全力を尽くしてまいります。

◆(淵上陽一君) 詳しく答弁をいただきました。

渋滞解消は、その根幹をなす道路事業の性格上、長い時間と多額の予算を要するものと

承知しておりますが、県民の間に早急かつ抜本的な改善を願う機運がかつてないほど高まっている今こそ、県がリーダーシップを発揮し、国、そして関係市町村と十分な連携を取りながら、着実かつ迅速に対策を取り進めていただきますよう、お願いを申し上げます。